

第1回 四国21世紀の道ビジョン推進懇談会

議事概要

日時：平成15年10月17日(金) 10:00~12:00

場所：全日空ホテルクレメント高松

- 議事次第：
- (1) 開会
 - (2) 懇談会の目的・スケジュールについて
 - (3) 委員紹介
 - (4) 議事
 - 1) 「道ビジョン」の概要
 - 2) 道ビジョンにもとづく新たな施策の取り組み
 - 【報告事項】
 - ・事業進行状況の公表について
 - ・有料道路社会実験について
 - ・88クリーンウォーク四国について
 - 【審議事項】
 - ・平成15年度 業績計画書について
 - 3) 意見交換
 - (5) 閉会

座長	井原 理代	香川大学 経済学部 部長・教授
委員	山中 英生	徳島大学 工学部 建設工学科 社会システム工学講座 教授
	朝倉 康夫	神戸大学 工学部 建設学科 土木系教室 教授
	那須 清吾	高知工科大学 工学部 社会システム工学科 教授
	三好 芳博	吉野川オアシス(株) 社長
	松岡 勝哉	(社)香川県観光協会 専務理事
	合田 正美	通・翻訳イサ&バイリン出版 代表取締役
	笠岡 繁樹	(株)ヨンキュウ 代表取締役社長
	濱田 龍太郎	高知新聞社 メディア読者局 局長

(敬称略)

第1回四国21世紀の道ビジョン推進懇談会が平成15年10月17日(金)、高松市内で開催された。

今回は四国地方幹線道路協議会で策定した道ビジョンを実現していくために、現在取組中の内容についてご報告するとともに、新たに取り組むべき施策・事業について積極的な推進を図る上での方向性等について、懇談会各委員から以下のご意見を頂来ました。

『道ビジョンの各施策に関する主な意見』

道ビジョンの各施策への提言

- ・ 社会実験では、実験実施前から、何を知りたいかを明確にし、どういうデータを取り、どのように使うかということが重要である。
- ・ 88クリーンウォークの参加者が環境などに関するモニタリングにつながるような仕組み、また継続的な取り組みを行うべきである。
- ・ 「四国のみち」の新たな取り組みも20年前にスタートした時点から、今議論されているアウトカム指標のようなものを作ってあげれば、みちの姿が明確になっていたのでは。

施策・事業の進め方に係わる意見

- ・ 使う側の視点、地域性・地域らしさを重視するこの2つの視点が重要。
- ・ 道をつくることは必要だが、つくることが目的化されている面もあり、いかに利用するかが大切。
- ・ 「安心」「活力」「魅力」が重なり合っただけの道ビジョンであり、これらを実質化して行く内容を付加していく必要がある。
- ・ 「魅力」は地域の連携が大切。地域が誇れるまちづくりができれば魅力はついてくる。道路は「線」であり、まちづくりの支援ができる。
- ・ 「魅力」では、観光客、住民のどちらが対象なのか、あるいは両方か、対象を明確にして施策を行うべき。
- ・ 四国は点の観光資源。これをつなげて外からお客を呼べる線（道路）が必要。
- ・ アウトカム指標による評価システムにおいて「集中的に投資する」ということは優先順位をつけるということ。それは誰がどのようにして決めるのか明らかにすべき。
- ・ どういう組織でどのようにマネジメントしていくのか、四国全体の目標像、各県の目標像、各市町村の目標像を明確にし、市町村まで降りてくると道づくりということではなく、地域づくり・まちづくりの視点で道路をどう絡ませるかということになる。
- ・ 費用対効果において損益分岐の考え方を盛り込んでも良いのではないかと、逆に道路は社会資本のため損益分岐が合致しないとも考えられる。
- ・ 山間部は都市部に比べ道路整備が非常に遅れた状態である。
- ・ 徳島県は山間部が多い地域であるため、安全・安心を優先に。
- ・ 四国東南・西南地域において南海地震対策や救急医療など安心確保のために一日も早い高速道路整備をお願いしたい。
- ・ 水産品、農産品は鮮度が命であり時間との競争である。本四三架橋開通、高速道路整備により、東京等の大消費地への出荷を可能にした。
- ・ 国民的なコンセンサスを得ながら高速道路の料金体系が決まるのも大切。

道路業績計画書に係わる意見

- ・ 成果主義にもとづく道路行政を行うにあたり、業績の取り方、わかりやすさは非常に重要。
- ・ 業績計画書という概念が分かりにくい。ここでの視点や定義は明確にすべき。
- ・ ユーザーやニーズに対応した指標とはどういうものか、政策目標として本当に正しいかという視点に配慮しつつ、アウトカム指標をつくるべき。
- ・ 指標の定義が微妙に異なるものがあるため、アウトカム指標により評価するスタンスを明確に（四県比較するつもりなのか、比較しないのかなど）。
- ・ 業績計画書において評価基準を明らかにし、目標数値に向かって今後少しずつ改善していけばいい。
- ・ 四国に合ったアウトカム指標という視点は賛成。しかし、費用面についての議論が必要。利用者として道路は欲しいが、納税者としては費用対効果について明らかにして欲しい。
- ・ 15年度の事業進行目標を掲げる際に、これらの事業の目的や期待される効果を明確にしておくことが必要。
- ・ 事業の優先性や期待値などは素人でも判断できるようなくみに（共通評価項目による5段階評価など）。
- ・ 専門的用語はコラムなどで説明があれば議論しやすい。
- ・ 「活力」「魅力」のアウトカム指標にはユーザーアビリティを付加すべき。

地域の共感を呼ぶ成果に係わる意見

- ・ 国民、市民に理解してもらうためPRが大切。交差点改良など既存ストックの活用においても費用対効果が高いものもある。これらを見つけて上手にPRしていくべき。
- ・ ユーザー側の意見徴収はインターネットだけでは対象が限定される。高齢者等にも配慮し、もっと広くアクセスできるパブリックコメントの取り方をする方が良い。

以上



第1回「四国21世紀の道ビジョン推進懇談会」風景

ヒアリングによる2名の委員からの主な意見

玉里 恵美子 高知女子大学社会福祉学部 助教授
新居 洋子 (有)新居バイオ花き研究所 代表取締役

(敬称略)

- ・ 88 クリーンウォークなども総合学習の一環として初めて来た人と地域の人との交流を通し地域を見直し(調べ学習)してもらいながら次の世代に繋げていくことも重要。
- ・ 山間部では携帯電話が不通であり、住民は情報や交通確保など身近な安心を求めている。
- ・ 日本は地方においては古来より集落が基本であり、行政は地域密着が必要とする多機能な道を整備する事が一番重要。
- ・ 道ビジョンでは施策の採算性で示せないものについては、地域への波及効果を明確に示す必要がある。
- ・ 道路整備により安全が確保され所要時間が短縮することは、高齢化や人口減少する田舎こそ子育てなど生活する上で非常に大きな意味がある。
- ・ 田舎が荒廃して行くことは都会の人にとっても癒しの場が失われたり食料供給など様々な影響が出るということ。

以上